

# 栃木県農業試験場いちご研究所 ニュースレター 第3号

## <本号の内容>

- 試験研究：観光用いちご「とちひめ」
- 生産・流通・消費：果物消費動向から見るいちごの消費推移
- トピックス：①いちご研究セミナー  
②「いちご王国・栃木」プロモーション  
③スカイベリー Luxury Project オープニング・プチパーティー
- いちごの“そうか!”：いちごはどの部分が甘い？



いちご研究所では、次代を担う新品種の育成や新技術の開発、消費動向などの調査・分析などの研究を行っており、研究成果や生産・流通などに関する情報を、皆様に分かりやすくお伝えするため、「いちご研究所ニュースレター」を発行しています。

今号では、観光用いちご「とちひめ」や果物消費動向から見るいちごの消費推移についてご紹介します。

## 試験研究：観光用いちご「とちひめ」

### 1 「とちひめ」の特性

「とちひめ」は平成10年に育成され、平成13年に品種登録されたいちご品種です。

「とちひめ」は平成2年に「栃の峰」に「久留米49号」を掛け合わせて育成されましたが、同年にこの逆の掛け合わせで育成されたのが「とちおとめ」です。

「とちひめ」の主たる収穫時期は「とちおとめ」と同様に12月から5月上旬頃まで、果実は「とちおとめ」よりもやや大果で赤味が強く、極めてジューシーで、口当たりのよい食感が特徴です（写真



写真1 「とちひめ」の果実

1)。やわらかい酸味が甘さを際立たせる食味は、幅広い年齢層から支持を得ています。

しかしながら、そのジューシーさや口当たりのよい食感は、市場出荷などの長距離輸送には不向きであることから、栃木県内のいちご摘み取り園や観光直売所などに限定した栽培が行われており、「幻のいちご」と称されています。

皆さんも、栃木県にいらっしゃって「幻のいちご とちひめ」をご賞味ください。

## 2 生産者が語る「とちひめ」の魅力

とちぎ観光いちご園連絡協議会の女性役員であり、「幻のいちご とちひめ」を生産する猪野正子さんにその魅力について、お話を伺いました。

猪野さんは昭和 30 年頃から真岡市でいちごの生産を始め、現在は「とちおとめ」、「とちひめ」の 2 品種を栽培しています。「とちひめ」の魅力は、「真っ赤な紅色、形の大きさ、ジューシー・フルーティーでトロピカルな甘みの強い味」で、その魅力に惚れ込んで情熱をかけて生産している、と語っていただきました。また、「とちひめ」には「姫」の品格があるので、その品格を守りながら、女性ならではの「かわいい」や「きれい」等の視点を生かしたパッケージで、良い品質のいちごにこだわって生産・販売しているとのことでした（写真 2）。デリケートな品種であることもあり、「とちひめ」にはこれからも愛情を注ぎ、守ってきたいとのことでした。



写真 2 猪野正子さんと「とちひめ」のパッケージ

## 3 栃木県内いちご狩り情報

県内の観光いちご園では、「とちおとめ」の摘み取りのほか、市場には出回らない「とちひめ」や、大粒の「スカイベリー」のいちご狩りができる観光いちご園もあります。

なお、本年はホームページ又はパンフレットに掲載の観光いちご園 3 か所でいちご狩りを楽しんでいただき、スタンプを集めて応募いただいた方に来シーズンのペア入園無料券を先着 150 名にプレゼントしています。詳細は以下のホームページを参照ください（図 1）。

- ・ 栃木いちご狩り情報（30 年産とちぎ観光いちご園）

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/intro/tokusanhin/nousan/ichigo-gari.html>

- ・ 30 年産とちぎ観光いちご園「スタンプラリーを開催！」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/30kankouichigoenstampラリー.html>



図 1 県内観光いちご園のチラシ

## 生産・流通・消費：果物消費動向から見るいちごの消費推移

総務省が行っている家計調査における、いちごの年間の一人当たりの購入数量は、平成28年では758gで、いちご約3パック分に相当し、支出金額は1,074円となっていました。平成9年の購入数量は1,139gであったので、20年間で購入数量は約7割まで減少しています（図2）。

また、いちごに限らず、生鮮果物において購入数量の多い、みかん、りんご、高級贈答品のイメージのあるメロンについても、20年前との比較では、購入数量、支出金額ともに減少傾向にあります。

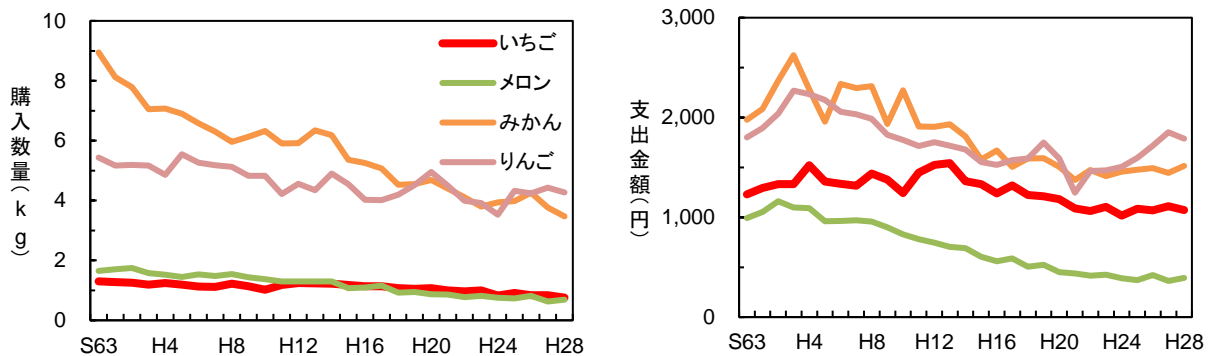


図2 主な生鮮果物における年間の一人当たりの購入数量及び支出金額  
(家計調査 平成28年)

## トピックス：①いちご研究セミナー

いちご研究セミナーは、現場に密着した試験研究の推進と研究成果の普及を効率的に行い、本県農業の振興を図ることを目的に毎年開催しています。本年度は12月6日（水）に開催し、生産者や関係機関など110名が参加しました。

研究成果として、開発研究室からは、いちご「スカイベリー」の改良摘花法、次世代型いちごの栽培技術（炭酸ガスの長時間施用効果）の確立について紹介しました。

試験ほ場の検討では、ICT 技術を活用したいちごの生育診断や環境制御について、活発に意見交換が行われました（写真3）。



写真3 試験ほ場の検討



## トピックス:②「いちご王国・栃木」プロモーション

本県が、いちごの収穫量 50 年連続日本一が確実となり、名実ともに「いちご王国」となったことを契機に「いちご王国」プロモーションを実施し、「いちご王国・栃木の日」の制定や、県内各所でのイベントの開催、企業、団体等による協賛事業を展開しました。

1 月 15 日（月）には、「いちご王国・栃木の日」記念セレモニーを県議会議事堂で開催し、いちご関係者や一般来場者等約 500 名が出席しました。セレモニーでは、当研究所の石原所長が、栃木県のいちごの歴史などについて説明し、続いて、国王（福田富一知事）による「いちご王国・栃木の日」宣言、次代を担ういちご農家などの若者による「国民の宣言」が行われました（写真 4）。

また、「いちご王国・栃木の日」である 1 月 15 日（月）から 2 月 14 日（水）までの 1 か月間を集中プロモーション期間として、県内大型集客施設等においてイベントを開催し、いちご苗の植え替え体験や糖度測定体験等を通して、いちごの魅力を楽しむ機会を提供しました（写真 5）。



写真 4 いちごの歴史について紹介



写真 5 「いちご王国」太陽のスマイルマルシェ

## トピックス:③スカイベリー Luxury Project オープニング・プチパーティー

スカイベリーの魅力を多くの方に知っていただき、味わっていただくことを目的に、「スカイベリー Luxury Project」を発足し、1 月 15 日（月）から 2 月 14 日（水）まで首都圏を中心に集中的にプロモーションを展開しました。

1 月 26 日（金）東京ステーションホテルで開催したイベントでは、SNS で発信力のある女性約 50 名を招待し、「スカイベリー」を使ったオリジナルスイーツを楽しみながら、その様子をフェイスブックやインスタグラム等へ投稿し、「スカイベリー」の魅力を発信しました（写真 6、7）。また、当研究所からは「スカイベリー」の大きさや美しさ、おいしさ等の魅力について PR しました。



写真6 「スカイベリー」の紹介



写真7 「スカイベリー」を使用したスイーツ

### いちごの“そうか！”:いちごはどの部分が甘い？

そう果<sup>※</sup>(果実表面のツブツブ)を播種して生育させると「多様性を示すように、「そうか！」と思えるような様々な豆知識等」を紹介します



いちごを水平方向に三等分すると、先端部分が最も糖度が高く、へた元の部分と先端部分では、1%以上の糖度の差があると言われているよ(写真8)。これは、いちごの果実が先端部分からへた元の部分に向けて成熟していくことを示しているんだ。どの部分から食べると、より味を楽しめるか、考えながら食べてみてね！

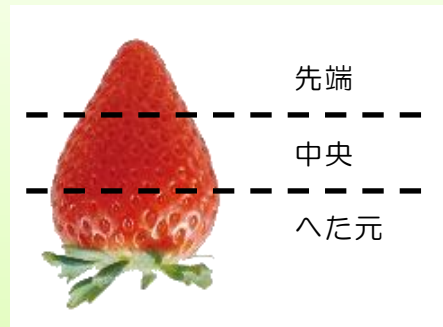


写真8 いちごの果実を水平方向に三等分したイメージ

栃木県農業試験場いちご研究所ニュースレター第3号

平成30年3月19日 発行



発行 栃木県農業試験場いちご研究所

※本ニュースレターの無断転載を禁止します

〒328-0007 栃木県栃木市大塚町 2920

TEL: 0282-27-2715

FAX: 0282-27-8462

E-mail: [nogyo-s-ichigo@pref.tochigi.lg.jp](mailto:nogyo-s-ichigo@pref.tochigi.lg.jp)

URL: <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g61/>

※いちごの実の表面のツブツブを「そう果」と言います。「そう果」はいわゆる種で、「そう果」から育てたいちごの苗は1株、1株が異なる性質を示します。